

編 集 後 記

臨床神経編集委員会では、2011年3月より座長推薦論文の制度をとっています。これは、各ブロックの地方会での発表の中から、臨床神経学への投稿を推薦していただく制度です。おかげ様でこの制度をとるようになってから着実に投稿部数が増え、本誌が活性化されありがたく思っています。これからも、推薦論文に限らず学会発表した症例は、是非、臨床神経学へ投稿して下さい。

ところで、論文作成においては発表の読み原稿の内容をそのまま論文の本文にするわけにはいかないと思います。なぜならば学会発表では、限られた時間内で症例の新規性と妥当性を提示できるように、すでに一度、内容を推敲しながら整えているからです。実際、若い先生方の中には、上の先生の指導をうけながら、何回もスライド原稿を作り直し発表内容を作り上げた経験がある方も多いと思います。そのため、症例報告の学会発表を論文として記載するには、もう一度、臨床情報に立ち返り、内容の肉付けをした上で論文形式にそぎ落とし、整えていく作業が必要になります。病歴の一行一行にも意味をもたせ、検査結果の提示の仕方も工夫し、もしかしたら、学会発表の時には気が

付かなかった考察が必要になる場合もあるでしょう。さらに、今度は、学会予行のように、近くに上の先生がいるわけではなく、自身で判断しながら文章を記述することになります。この過程が、論理的な臨床の文章を書く力を身につける訓練になると思います。是非、若い先生方は、自身の発表症例を論文化することで、この力を身につけてほしいと思います。

本年度より発刊された神経学会英文誌の中にも症例報告の掲載枠があります。臨床神経学としては、学会発表された症例報告をする掲載先としての競争相手と言えるかもしれません。ところで、前述のように論文化のためには、多くの情報から必要なものを抽出し、人を説得できる論理的な記述を組み立てる力が不可欠です。これはいかなる論文でも前提となるものでしょう。力のある先生はともかく、多くの日本人の若い先生方にとっては、この力を養う訓練の場では英語よりも日本語の方が操りやすいと思います。論理的な文章を記述する訓練の場として、是非、今後も臨床神経学を利用いただきますことをお願いいたします。

(清水 潤)

〈 編 集 委 員 〉

編集委員長 中野 今治 編集副委員長 阿部 康二 鈴木 則宏
 編集委員 神田 隆 木村 和美 桑原 聡 瀧山 嘉久 野村 恭一 森 悦朗
 編集委員(幹事兼任) 清水 潤 森 秀生 吉井 文均

〔臨床神経学〕 第53巻 第4号 平成25年4月1日発行
 編 集 者 東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル 一般社団法人日本神経学会
 発 行 者 東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル 水 澤 英 洋
 印 刷 所 〔郵便番号 602-8048〕京都市上京区下立売通小川東入 中西印刷株式会社

発 行 所 〔郵便番号 113-0034〕東京都文京区湯島二丁目 31 番 21 号 一丸ビル
 日 本 神 經 学 会

郵便振替口座 東京 00120-0-12550

TEL. 03-3815-1080 FAX. 03-3815-1931

ホームページアドレス：<http://www.neurology-jp.org/>